



ZENFUREN

全国国立大学附属学校連盟・一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会

附属だより 第121号

全附連ホームページ <http://www.zenfuren.org/>

全附P連最新情報 [https://www.facebook.com/\(-社\)全国国立大学附属学校PTA連合会](https://www.facebook.com/(-社)全国国立大学附属学校PTA連合会)
-535185576863562/

~子どもたちとこの国の未来のために~



全附P連 令和5年度 総会開催

6月3日(土) コングレスクエア日本橋

全附P連 新会長に桑名良尚
(三重大学教育学部附属小学校)が選任

第71回一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会定時総会が令和5年6月3日に東京日本橋のコングレスクエア日本橋にて、全国各地からのZoom参加者を迎えて開催されました。

総会は2部構成で行われ、第1部では令和4年度の事業報告、収支決算、令和5年度役員について審議され、賛成多数にて可決されました。その後令和5年度の新理事、監事による第1回理事会が開催され、令和5年度新会長に桑名良尚氏が選任されました。その後令和5年度の事業計画案および予算案が審議され、こちらも全て賛成多数にて可決されました。

第2部では桑名会長の就任挨拶に始まり、ご来賓の方々からの録画によるご挨拶をいただきました。表彰状、感謝状の贈呈ではPTA団体表彰の会長賞に輝きました北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程PTA(松井聖治会長)の「新たな地域イベントを創造するサンセットフェスティバル」が発表され、大竹昌士直前会長から表彰状が送られ、その後桑名会長から大竹直前会長にも会長退任者として表彰状が送られました。

またご来賓の文部科学省総合教育政策局教育人材政策課教員養成企画室長の小畑康生様をはじめ、ご家庭庁、財務省、金融庁の方からご挨拶と行政説明をいただきました。

第121号

LINEUP

- 総会特集 1面
- 令和5年度新体制委員会活動方針 2~3面
- 寄稿 藤江陽子氏 4面
- 全附連盟特集 5面
- 地区会ピックアップ 6面
- 全附P連作文・絵作文コンクール2022 7面
- 全附P連表彰 8面
- いじめ防止対策 9面
- 幼稚園特別支援委員会ページ 10面
- OB訪問 12面

自校の課題解決を越えて

日頃から、PTA活動を通じて、子供たちの健全育成のために御尽力いただきありがとうございます。

先般、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが変更されたことを踏まえ、各附属学校においては、感染拡大の防止に留意しつつも、子供たちが安心して充実した学校生活を送ることができるよう、様々にお取り組みいただいているところかと思えます。

他方、これまで3年以上にわたって感染症対応が続いてきたこともあって多くの課題に直面されているのではないかと思えますが、この間、様々な創意工夫の下で行われてきたオンラインやデジタル技術の活用による効率的・効果的な実践も生かしながら、自校の課題解決にとどまらず、学校教育の未来を切り拓くべく、果敢に取組を進めていただきたいと考えています。

皆様方におかれましては、附属学校教育の良き理解者として、引き続き、お力添えをいただきますようお願いいたします。



就任のご挨拶～未来へ向かって～



一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会
会長 桑名良尚
(三重大学教育学部附属小学校)

令和5年度、全附P連会長を拝命しました桑名です。どうぞよろしくお願い申し上げます。6月3日に定時総会が対面で開催され、多くの方々にご参集いただき、皆様のご理解とご協力により、全ての議案についてご承認をいただき、令和5年度新体制としてのスタートを切ることが出来ました。

「子どもたちとこの国の未来のために」をスローガンにここ数年活動を進めてきました。子どもたちが笑顔でいてほしい、その笑顔を近くでずっと見ていたいというのが私たち保護者の願いであります。通学途中の事故・いじめによる自殺・不登校、学校に係る報道がなされる現状、こんなことは誰も望んでいません。もっともっと子どもたちの笑い声を聴きたい、笑顔を見たい、そう願ってやまなっています。

3年前に突如やってきた新型コロナウイルス感染症流行の結果として、多くの人々が傷つき、悲しみ、我慢を強いられてきました。特に傷ついた世代の一つに、教育や対人スキルを身に着ける機会が妨げられた子どもたちがいます。助けが欲しいと声に出せない子どもたちが多くいます。助けを求めることは勇気ある行動であることを、私たち保護者が子どもたちに示し、対話の中から解決策を模索し、笑顔につなげることができると信じています。

全附P連は受動的な活動だけでなく、自発的で懸命な活動、築かれた信頼、そして、困難な中でも対話を通じて結果を出し続けるよう活動しています。一年間、精一杯活動してまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶～心のディスタンス～



全国国立大学附属学校連盟
理事長 鎌田正裕
(東京学芸大学附属竹早小学校長・附属幼稚園竹早園舎長)

新型コロナ禍において、ソーシャルディスタンスという言葉が日常語になりました。もちろんこの言葉は密を避けるための物理的な距離を意味する言葉なのですが、コロナは人と人との心的な距離感も広げてしまったように思います。特に学校内では、マスクの着用や黙食の影響もあり、子ども同士や子どもと教師の間での意思疎通が以前よりむずかしくなってしまったように感じます。感染症5類への移行を受け、ようやくコロナの収束にも現実味が感じられるようになってきました。

本年度は、子どもと子ども、子どもと教員、そして教員と保護者間の心のディスタンスが縮まる学校づくりを目指したいと考えています。全附連でも、皆さまが近い距離(同じ立場)で、しっかり議論ができる機会が得られるよう誠意努力する所存です。連盟の運営には皆さま方のご理解とご協力が必要です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和5年度 活動基本方針

一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会

一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会(以下、全附P連)は、全国56の国立大学法人に設置された幼稚園49園・小学校67校・中学校68校・高等学校15校・義務教育学校4校・中等教育学校5校・特別支援学校45校、計253校園(令和5年3月現在)の置かれている現状と求められる使命を十分に理解した上で、その絆とスケールメリットを生かし、子どもたちの学習環境の充実と安心安全の確保、さらには附属学校の発展、国立学校としてこの国の未来を見据えた日本の公教育の振興に寄与することを目的とし、PTA活動の実践と研鑽を推進する。

また、全国国立大学附属学校連盟(以下、連盟)とともに、日本教育大学協会をはじめとする諸団体と連携しながら附属学校および附属学校を設置する国立大学法人をサポートし、附属学校の持つ独自性や創造性、社会的使命、存在意義、現状などをそれぞれの地域社会および全国的に発信することにより広く世の中の理解と支援が得られるよう積極的な活動を展開する。

1 共有、対話による理解
附属学校の果たすべき使命である日本の公教育を支える国の拠点校、地域のモデル校としての役割について、学校をサポートすべくPTAが参画し研究実践することで得た情報を会員相互で共有するとともに、連合会はその貢献度を各関係官庁や諸団体に広く発信していく。また、各学校PTAがそれぞれの学校で直面する課題を解決するための一助として、設置者である国立大学法人とのさらなる連携と対話を提唱する。

2 附属学校PTA活動の活性化支援と各組織の相互連携
子どもの成長過程に応じた教育の在り方、学習環境の充実と安心安全の確保、附属学校を取り巻く諸問題などへのPTAの関わり方を実践研究し、その成果や課題を共有、議論するための研修大会を開催し、全附P連、連盟と各学校PTAとの絆をより強く保つ。研修大会は各学校PTAの会員も視聴できるような開催方法とし、全国8万世帯の家庭に広く情報の共有ができることで会員の利益を確保する。また、全国9地区主催の実践活動協議会など各地区会活動を有機的に支援し、連盟との協働による活動の活性化を図る。加えて全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会と情報を共有し連携する。

3 対内および対外への広報活動の強化
各学校PTAが子どもたちとそれぞれの学校にしっかりと寄り添い、有意義な活動ができるよう、参考となるPTA活動の事例および情勢などを全国の附属学校および各学校PTAに発信し情報共有の強化を図る。また、附属学校がさらに広く世の中の理解と支援が得られるよう、マスメディアや関係諸機関に対し積極的な広報活動を展開する。さらにはICTを活用したタイムリーな情報交換、共有など、連合会が主体となつてその運営強化を図る。

4 「共に生きる」ことの推進
連合会では特別支援教育に対する理解と連携を進める諸活動の推進を掲げ、様々な取り組みを継続してきた。これからも種類を超えた絆を育て、多様な個性を持つ仲間との相互理解を育む活動を推進および発信する。また、自他を共に尊重する態度、能力の育成、自己有用感・自己肯定感の育成を目指した活動を推進し、インクルーシブ社会および一億総活躍社会の実現の牽引に努める。また、全人類的な課題であるSDGsに則った教育にも貢献する。

5 国の目指す教育改革の先駆者として
国の目指す教育改革の先駆者たる附属学校のPTAとして、全附P連は学校の働き方改革に協力するとともに教員という職業の魅力度向上に貢献する。加えて外部人材や資源を発掘し子どもたちの新しい学びの環境を創造することを提唱する。また、子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないようその現状を調査研究および実践し、有効な対策と教育を通じて貧困が連鎖することなく、すべての子どもたちが夢と希望を持って成長することのできる社会の実現を目指した活動を推進する。さらには学校の内外を問わず子どもたちの安心安全を確保するため防犯、防災に関する教育や活動および有害なIT環境の問題から子どもたちを守る活動を推進する。

6 新たな時代への対応
我が国の教育制度は、明治5年に「学制」が公布されて以来、150年にわたる幾多の改革を経て現在にいたっている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大と国際情勢の不安定化という予測困難な時代の象徴ともいえるべき事態が生じ、この国の教育の課題が浮き彫りになるとともに、学びの変容がもたらされた。少子化・人口減少、グローバル化の進展、地球規模課題、格差の固定化と再生産など、様々な社会課題が存在する中、Society5.0を見据え、これからの社会を展望する上で、教育の果たす役割はますます重要となっている。近年、いじめの重大事態の発件数や児童生徒の自殺者数は増加傾向にあり、憂慮すべき状況でもある。不登校児童生徒数は増加しており、個々の状況に応じた適切な支援が求められている。これら現代的教育課題に対して、全附P連は解決に向けて、新たなプログラムの作成等積極的に取り組む。

Society5.0においては、「主体性」、「リーダーシップ」、「創造力」、「課題設定・解決能力」、「論理的思考力」、「表現力」、「チームワーク」などの資質・能力を備えた人材が期待されている。個々が自立して自らの個性・能力を伸ばすとともに、多様な価値観に基づいて地球規模課題の解決をけん引する人材を育成できるよう、新たな情報等をタイムリーに発信していく。

令和5年度 (一社) 全国国立大学附属学校PTA連合会 役員・理事・監事・顧問・評議員構成

直前会長	大竹 昌士 令和3・4年度 会長	会長	桑名 良尚 (三重小)	理事会推薦理事	地区推薦理事
監事	田口 智之 令和4年度 副会長	大倉 宏治 令和3年度 副会長	専務理事	山口 泰一 (お茶の水女子中)	事務局 事務局長 田中 一晃
担当副会長(主)	宮本 昌尚 (香川坂出幼小中)	森川 誠 (奈良女子中等教育)	二村 美里 (静岡浜松中)	高地 たか子 (千葉中)	齋藤 伸 (福島特支)
担当副会長(副)	山口 泰一(兼)	高地たか子(兼)	齋藤 伸(兼)	二村 美里(兼)	宮本 昌尚(兼)
委員会	総務	財務	広報	研修	幼稚園特別支援
委員長	田城 敏史 (島根義務教育後期)	後藤 友樹 (弘前小)	羌 叡應 (神戸小)	真壁 雄一 (埼玉中)	世古 丈人 (三重中)
副委員長	白勢 啓仁 (新潟新潟小)	山ノ内 元治 (鹿児島小)	松井 聖治 (北海道教育訓路義務後期)	松原 賢宏 (東京学芸 世田谷小)	内山 航 (新潟新潟中)
連盟選出理事	吉田 隆 (奈良女子中等教育)	後藤 貴裕 (東京学芸国際中等)	塚本 博則 (東京学芸小金井小)		
顧問	神余 智夫 令和元・2年度 会長	萩原 清明 令和4年度 副会長	谷田部 秀男 令和4年度 副会長	西村 寧 令和4年度 委員長	幡谷 公朗 全附後連直前理事長
評議員	北海道地区(会長 相澤 英俊)		東北地区(会長 西井 英正)		関東地区(会長 湯澤 晃)
	相澤 英俊 (北海道教育札幌中)	山形 俊英 (北海道教育函館中)	西井 英正 (宮城教育中)	浅野 和宏 (山形中)	湯澤 晃 (群馬中)
	北信越地区(会長 坪田 大輝)		東海地区(会長 山内 勇吾)		近畿地区(会長 森川 誠)
	坪田 大輝 (金沢中)	遠藤 直子 (新潟特支)	山内 勇吾 (愛知教育岡崎中)	山口 貴史 (静岡静岡中)	井上 周 (大阪教育高天王寺校舎)
中国地区(会長 藤原 純一)		四国地区(会長 平山 雄士)		九州地区(会長 有村 純頼)	
藤原 純一 (島根義務前期)	山下 浩史 (鳥取中)	平山 雄士 (香川高松小)	小川 浩司 (鳴門教育小)	有村 純頼 (鹿児島中)	松永 尚宏 (福岡福岡小)
連盟選出評議員	甲斐 雄一郎 (元筑波小)	池田 全之 (元お茶の水女子中)	木村 勝彦 (元茨城小)	太田 千佳子 (元北海道教育特支)	吉田 裕亮 (お茶の水女子高)

教育後援会理事長挨拶

『教育後援会運営ガイドライン』いよいよ発刊！



全国国立大学附属学校
教育後援会連絡協議会
理事長 寺本 俊彦氏

平素より全附P連の皆さまには当会の活動に際し、ひとかたならぬご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
6月3日に開催された定時総会にて新たに理事長を拝命しました。
発足時から理事を務めるのは、いよいよ私を残すだけとなりました。発足当初の理念を忘れることなくしっかりと継承してまいります。
全附後連では、令和3年度から委員会活動を本格的にスタートさせ2年が経過しました。当初からの課題でもありました。全国の教育後援会に対し、運営のあるべき姿をどのように示すべきか、関係各所と調整を進め、ようやく「教育後援会運営ガイドライン」として発信する準備が整いました。
先日のオンラインセミナーでもたくさんの方の附属学校教育後援会関係者にご視聴いただいたことに感謝すると同時に、皆さまがこの件に関して高い関心を寄せていただいていることをあらためて実感することができました。
9月の全国大会でも継続して発信し続けてまいります。
引き続き、当会に変わらぬご支援を賜ります様お願い申し上げます。

令和5年度 委員会活動

総務委員会

- 1. 総務全般
- 2. 諸会議の設営(総会・正副会長会・理事会・評議員会・地区会長会、運営企画会議)
- 3. 地区間交流事業の実施
- 4. 附属学校での取り組みを発信する場の提供
- 5. 表彰の企画・運営
- 6. 文部科学省をはじめとする関係省庁、関係団体との連携
- 7. その他

財務委員会

- 1. 会計業務全般
- 2. カンガルー保険関係業務
- 3. GIGAスクール・働き方改革に関する調査
- 4. 財政教育プログラム関係業務(財務省との連携)
- 5. 金融経済教育プログラム関係業務(金融庁との連携)
- 6. その他

広報委員会

- 1. 広報活動全般(情報収集・情報発信・取材対応)

- 2. 附属だよりの企画・取材・編集・発行
- 3. ホームページの企画・運営
- 4. 絵画コンクールの実施(主管校:名古屋大学教育学部附属中・高等学校)
- 5. 作文・絵作文コンクールの実施
- 6. その他

研修委員会

- 1. PTA研修会第14回全国大会の企画・運営
- 2. 全国大会実行委員会の運営
- 3. PTA研修会第15回全国大会の企画
- 4. 国立大学附属学校全国同窓会との連携、大同窓会運営協力
- 5. その他

幼稚園特別支援委員会

- 1. カンガルーシップ活動助成事業の企画・実施
- 2. 特別支援学校・学級に関する調査研究
- 3. 就労支援に関する調査研究
- 4. あいサポート運動関係業務
- 5. 附属幼稚園の取り組みに関する調査研究
- 6. 関係団体・特別会員特別支援学校との連携
- 7. その他

各委員会共通

- 1. 運営企画会議への参画
- 2. PTA研修会第14回全国大会への参画
- 3. 広報活動(ホームページ運営含む)への協力

〈特別委員会・実行委員会〉

全国大会実行委員会

- 1. PTA研修会第14回全国大会の連絡・調整・実施
- 2. PTA研修会第15回全国大会の企画・連絡・調整
- 3. その他

特別委員会

- 1. いじめ防止対策活動事業
- 2. 特別広報活動(附属学校に関する戦略的広報活動、SNS等)の企画・運営
- 3. その他

役員・委員長・監事・地区会長の

活動方針

<p>森川 誠 副会長 特別委員会副委員長(財務委員会担当) 適正な予算執行などの財務管理を中心に、カンガルー保険の拡張見直し、いじめ防止対策事業についても積極的に取り組み、公教育に資するよう活動を行っています。</p>	<p>二村 美里 副会長 特別委員会委員長(広報・研修委員会担当) ウェブサイトやSNS、広報誌などを通じて、有益な情報を迅速にお伝えします。また附属学校の教育の素晴らしさを社会に向けて発信します。</p>	<p>高地 たか子 副会長 全国大会実行委員会実行委員長(財務・研修委員会担当) 全国大会の開催を通じ各PTAの強固な繋がりの橋渡しをすることで、国立附属学校の持つ使命が果たせるサポートをして参ります。</p>
<p>齋藤 伸 副会長 (幼稚園特別支援・広報委員会担当) 特別支援学校・学級や幼稚園のみんなと保護者のみなさまのがんばりを応援します！併せて「やわらかく温かな活動」を心がけてまいります。</p>	<p>山口 泰一 専務理事(副会長、総務委員会担当) 全附P連70年の歩みを糧として「新時代」へ、新しい切り口を模索しながら、子どもたちの明るい未来のために全力で取り組みます。</p>	<p>田城 敏史 総務委員長 諸会議が円滑かつ適正に執り行って頂けるように凡事徹底して努めていくと共に、関係省庁・団体との連携強化を図ってまいります。</p>
<p>後藤 友樹 財務委員長 資金収支及び予算等の財務業務を行います。カンガルー保険の推奨。財政・金融教育プログラムの推奨を進めて行きます。また、いじめ防止対策事業も積極的に取り組んで行きます。</p>	<p>羌 叡應 広報委員長 全国の附属学校園及び各PTAの活動が、社会の支持を得られるよう情報発信力を高め、マスメディア等へ広報活動を展開します。</p>	<p>真壁 雄一 研修委員長 全国大会実行委員会副委員長 今年度の全国大会は、集合とオンデマンド配信で開催します。皆様の心に残る全国大会になるよう精一杯努めてまいります。</p>
<p>世古 丈人 幼稚園特別支援委員長 共生社会を目指すインクルーシブ教育の活動をさらに推進し、各幼稚園・特別支援校における魅力ある教育実践の情報発信に努めてまいります。</p>	<p>大倉 宏治 監事 監事2期目となりました。前年と同様、それ以上の充実を目指して、職業会計人の経験を活かして監事に従事させていただきます。</p>	<p>田口 智之 監事 ポストコロナの時代～子どもたちとこの国の未来のために～全附P連の様々な活動が適切に行われていくことを担保するよう、監査業務に努めてまいります。</p>
<p>相澤 英俊 北海道地区会長 北海道地区の学校園、後援会と連携しコロナ禍後の利便性の高い活動をし、ITを活用した高度な教育実践をしております。</p>	<p>西井 英正 東北地区会長 今年度については、コロナ以前の東北附連の活動を再開したいと考えています。コロナで培われた様々なツールを使用しながら、活動の充実と負担の軽減を進めて参ります。全国の皆様、今年度もよろしくお願い致します。</p>	<p>湯澤 晃 関東地区会長 新型コロナ禍でストレスを抱えてしまった子供たちが少しでも早くのびのびと充実した学校生活を送れるようになるよう努力します。</p>
<p>坪田 大輝 北信越地区会長 激動の時代だからこそ、改めて地域の附属学校園としてPTAの必要性や、学校教育に参画する素晴らしさを広めていきたい。</p>	<p>山内 勇吾 東海地区会長 子どもたちの笑顔と未来のため、地域から愛される附属学校であるためにPとTで力を合わせて良いチームを作っていきます。</p>	<p>森川 誠 近畿地区会長 各学校園の素晴らしい取り組みを情報共有し、PTA会長の悩みや不安をともに解決できるよう、また、先生方を支えよきパートナーとなれるように活動していきます。</p>
<p>藤原 純一 中国地区会長 コロナ禍で見出された創意工夫を基に、地区代表として子どもはもちろん、附属学校に携わる方にプラスとなる活動をしていきます。</p>	<p>平山 雄士 四国地区会長 今年度は対面のよさ、例えば直接交流や意見交換でうまれるアイデアをいかして活動します。子供たちの明るい未来を守りましょう。</p>	<p>有村 純頼 九州地区会長 九州地区8県の附属学校園の連携強化を図ると共に、全附P連での取り組みも共有し、地域の発展や子どもたちの笑顔のために精一杯取り組みます。</p>

省庁訪問

令和5年5月31日（公社）日本PTA全国協議会、（一社）全国高等学校PTA連合会、全国国立公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会、私達（一社）全国国立大学附属学校PTA連合会の国立4団体で、内閣官房長官 松野博一様に要望書を提出してまいりました。国立大学附属学校全国同窓会会長の塩谷立氏にも、同行を賜りました。

1. 教育予算の更なる確保について
2. 通学、通園の危険個所の改善について
3. 幼児教育の義務教育化について
4. 教職員の働き方改革の支援について
5. 国立大学との連携強化による教育の向上について
6. PTA活動の意義の周知に対する支援について

要望書にはこれらの変更の項目が盛り込まれております。

大変お忙しい公務の中にも関わらず、松野官房長官にはひとつひとつの項目に丁寧な回答を頂戴し、しっかり検討していくことをお約束いただきました。

その後は、文科大臣の永岡桂子様にも面談の機会をいただき、同じく要望書を提出いたしました。大臣からも熱心にお答えいただき、今以上に支援していただくことをお約束いただきました。

2年前から要望書の提出について4団体で協議を重ね、この日を迎えることができました。

この要望書が、子どもたちとこの国の未来のために、少しでも役立つことを願ってやみません。

また令和4年12月26日、文部科学大臣の永岡桂子様と面談の機会を頂戴いたしました。



永岡文科大臣へ写真フレームを贈呈

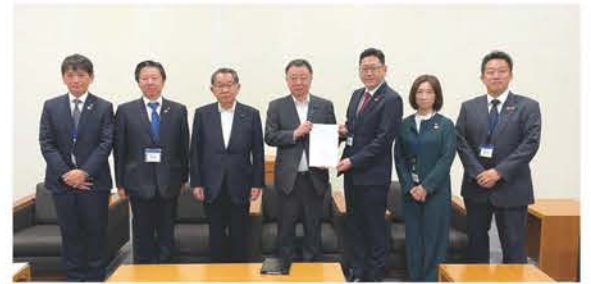


こども家庭庁訪問

令和5年5月26日には、発足したばかりの「こども家庭庁」へ伺いました。「こども家庭庁」からはいじめや引きこもり問題に具体的に取り組み、こどもが社会の真ん中で活躍することを目指している、頼もしい話をお伺いいたしました。

今回の面談では、現在附属学校が置かれている状況などを改めてご理解いただき、永岡文科大臣からは「国立大学附属学校に対するサポートをしっかりとやっていく」と力強いお言葉を頂戴いたしました。

出席と祝辞を賜ったことに対する御礼と、弊会の活動報告を申し上げ、当日の壇上で祝辞を述べられている写真フレームを、記念品としてお受け取りいただきました。



松野官房長官へ要望書の提出

第2回 全国同窓会開催



令和5年3月17日、東京学士会館にて、斎藤健法務大臣をはじめ附属学校出身の10名の国会議員の先生方や、各都道府県の同窓会会長の皆様方、約60名の出席者のもと「国立大学附属学校全国同窓会 第2回総会・大同窓会」が開催されました。

来賓には、ご多忙の中、国立大学附属学校振興議員連盟会長 森英介様、全国国立大学附属学校連盟理事長 吉田裕亮様、一般社団法人 全国国立大学附属学校PTA連合会長 大竹昌士様、全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会理事長 幡谷公朗様にお越しいただき、大変心強いお言葉を頂戴しました。また、全附P連の「70年のあゆみ」を鑑



賞させていただき、附属学校に対する熱い思いを再確認したところでした。

懇親会に入る前には、記念演奏として、日本とヨーロッパでバロック音楽を中心に活動されている、香川大学教育学部附属坂出中学校出身のバイオリニスト杉田せつこ氏に、バロック音楽の解説と大変すばらしい演奏をしていただきました。



国立大学附属学校全国同窓会では、全国的な縦と横の懇親を深め、附属学校の応援の輪をより広げるために、大同窓会の毎年の開催を目指しております。附属学校を取り巻く環境に数多くの同窓生が、より気にかけていただけることを切に願っておりますので、各都道府県の会長様をはじめ、同窓生の皆様方におかれましては、今後とも、ご参加のほどよろしくお願い申し上げます。「70年の歩み」動画



寄稿



文部科学省
総合教育政策局長
藤江陽子氏

小学校から高校までの十二年間、筑波大学附属（小学校時代は東京教育大学附属）に通っていました。昨年、国立大学附属学校PTAの表彰式に参加させていただき、附属時代を懐かしく思い出すとともに、先生方や保護者の方々にいかにお世話になったかを改めて痛感した次第です。

十二年間ですので、恩師や沢山の素敵な友人たち、そして様々な学習や経験の思い出と感謝は尽きませんが、ここでは、体験学習なども進めている今の仕事との関係から、特に有難かったと思うこと二点を挙げさせていただきます。

一つ目は、体験活動が大変充実していたことです。小学校では、日々隣接する「占春園」で木々や池に囲まれて遊んだり、自然を学んだり。そして季節ごとには保谷の農園で芋ほりや餅つきを楽しみました。清里での林間合宿、富浦での古式泳法の習得や遠泳も良い経験でした。中学では修学旅行で山梨の農家にお邪魔して桃の摘果を手伝い（寧ろ、邪魔をしていたのかも）、高校

では蓼科の寮で、テレビ等文明の機器のない生活を経験。東京生まれで、夏休みに遊びに行く祖父の住む田舎、というものもない私にとって、こうした自然の中での体験が豊富にあったことは、大変恵まれていたと感謝していますし、特に小学校での活動には、保護者の方々の支えがあったことを今更ながら有難く思い出します。

また、小学校の間は、毎日日記（低学年の間は絵日記でしたが）を書き、それを先生が毎日読んで傍線や丸つけをしてくださっていました。六年間毎日日記を書いていたという自分にも驚きですが、先生にとっても、日々忙しい中クラス全員の日記を読むというのはとても大変なことであったと思います。何冊かノートが溜まると製本もしてくれ、今でも大切に保存しています。自分の経験や思いを文章として書く良い訓練になるとともに、思い出が形として残る貴重な活動でした。還暦も近くなりましたし、久しぶりにページを開いてその頃の自分を見つけてみたいなと思っています。

小学校から高校までの十二年間、筑波大学附属（小学校時代は東京教育大学附属）に通っていました。昨年、国立大学附属学校PTAの表彰式に参加させていただき、附属時代を懐かしく思い出すとともに、先生方や保護者の方々にいかにお世話になったかを改めて痛感した次第です。

十二年間ですので、恩師や沢山の素敵な友人たち、そして様々な学習や経験の思い出と感謝は尽きませんが、ここでは、体験学習なども進めている今の仕事との関係から、特に有難かったと思うこと二点を挙げさせていただきます。

一つ目は、体験活動が大変充実していたことです。小学校では、日々隣接する「占春園」で木々や池に囲まれて遊んだり、自然を学んだり。そして季節ごとには保谷の農園で芋ほりや餅つきを楽しみました。清里での林間合宿、富浦での古式泳法の習得や遠泳も良い経験でした。中学では修学旅行で山梨の農家にお邪魔して桃の摘果を手伝い（寧ろ、邪魔をしていたのかも）、高校

全附属特集ページ「全国に5校ある義務教育学校の特色ある取組」

北海道教育大学附属釧路義務教育学校における 施設分離型の義務教育学校の取組

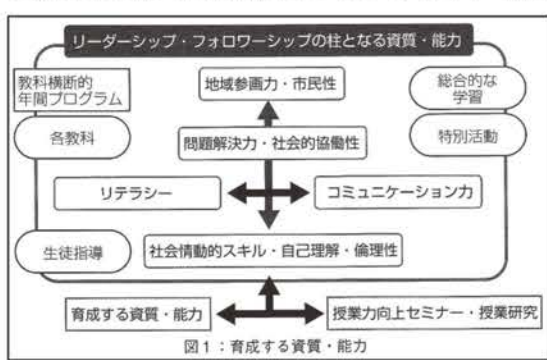


北海道教育大学附属釧路義務教育学校
校長 早勢 裕明

小中一貫教育の推進にあたっては、平成19年の学校教育法改正により、小学校と中学校が一貫してカリキュラムを組むことの重要性が指摘され、平成27年の学校教育法一部改正により、義務教育学校が制度として奨励されるようになりました。

令和5年4月現在、北海道には、公立の義務教育学校が12校（5校が今年度新規）あり、そのうち半数の6校は、本校が位置する北海道東部に集中しています。また、小中一貫教育を行っている中学校区も51（12中学校区が今年度新規）あり、そのうち38中学校区が施設分離型です。こうした背景から、これまで以上に小中一貫教育の実践研究が重要視されております。

このような中、本校では、平成26年から小中連携による小中一貫教育の充実に向けた研究を行ってきており、令和3年4月に施設分離型の義務教育学校としてスタートしました。



施設分離型の義務教育学校においては、施設分離型の小中一貫校と同様に、ハード面（施設等）が学校間で異なることから、前期課程（小学校）と後期課程（中学校）の

意識を揃えることへの困難さが指摘されております。本校においても例外ではなく、これまでの校舎施設、職員定数もそのままに義務教育学校へと移行したため、困難が危惧されておりました。

その困難を打開したのがソフト面の充実、「リーダーシップ・フォロワーシップ」の育成という新しい共有理念でした（図1）。

「リーダーシップ・フォロワーシップ」の育成は、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に資するものであり、「令和の日本型学校教育」を推進するものであると考えております。

「リーダーシップ・フォロワーシップ」の育成カリキュラムの1つとして、「総合的な学習の時間」では、前期課程は、身近な地域から道東地域に関わる自然環境と北海道の歴史から未来を見据え、体験的な活動を通して地域を学んでいきます。後期課程では、前期課程での学びや視点を踏まえて焦点化し、地域課題に対して地域で活躍する「人」に注目させています。こうした学びから、子どもたちは個々の抱いた地域課題の解決に向けた行動を行っていきます。別稿で紹介した「地域の新たなイベント」の創出は、その学びの一端です。

結果的に、施設分離型で困難があったからこそ、貴重な学びや気付きが得られたと思います。重要なことは、全教職員が共通理解のもと協働して子どもたちを9年間かけて育てることであり、ハード面（施設等）以上にソフト面（理念）の意識を揃えていくことだと考えております。

出典 「令和の日本型学校教育」への挑戦～小中一貫した義務教育を創造するカリキュラム・マネジメント～
北海道教育大学附属釧路義務教育学校 著

福井大学教育学部 附属義務教育学校 附属幼稚園. 附属幼稚園と連携したスタートカリキュラムの実践. 第5学年からの教科担任制 異学年間の合同授業. 発達段階ごとのステージで取り組む 社会創生プロジェクト. 世界と自分をつなぐ グローバル教育の推進. インクルーシブ教育の推進 多様性を認め合う 学びのコミュニティ.

岐阜大学教育学部附属小中学校 義務教育学校としての特色. 3部制 心身の発達を考慮し、緩やかにスムーズな成長を促し、次のステージにつなげるようにしています. 個別支援 1～9学年の全ての教職員で、935名の子どもたちを支えています. 研究開発 教育理念「人間教育」をさらに推進するために、新領域「どう生きるか」を立ち上げています. 異年齢活動 全学年で縦割り集団をつくり、「かぞく」として活動しています.

義務教育9年間を通して、子どもたちの学びを 計画的・継続的に支援しています！

京都教育大学附属京都小中学校 義務教育9年間を通して子どもの育ちを見つめる. 本校では、2002年度より小中一貫教育の教育課程と学校システムの研究を進め、2010年4月よりキャリア教育を中核に据えた小中一貫教育学校として新たにスタートしました. 小中の学校施設を一体化し、小中9年間を通して、生徒一人一人のキャリア発達能力に焦点をあてた教科授業をはじめ、様々な教育活動を展開しています. 子どもの発達段階にあわせ、4-3-2区分制を採用し、初等部・中等部・高等部とそれぞれの部の方針をたて、小中ギャップといった大きな壁ではなく、細かなステップアップができるようカリキュラムを編成してまいりました.

島根大学教育学部附属義務教育学校の特色ある取組. 島根大学教育学部附属義務教育学校は、令和元年度に開校しました. 本校の特色の一つとして挙げられるのが「未来創造科」です. 未来創造科は、義務教育学校のスタートにあたって、総合的な学習の時間を中核にして新たに設置された学校設定科目です. 本科目は、「教科学習と連動した体験型・探究型の授業」であり、「これからの時代に必要とされる資質能力の育成（未来創造科の魅力）」と「学力につながるあたらしい「ふるさと教育」の創造（地域のモデル）」となるものだと考えています. 「主体的に課題を見つけ、様々な他者と協働しながら答えのない課題に粘り強く向かっていく資質・能力・態度（論理的思考力、想像力、問題解決力、コミュニケーション力、学習意欲、感性等）を育成し、地域の未来を担う人材育成を目指す」ことを目標に掲げて、9年間を通じた探究的な学びに取り組んでいます.

地区会ピックアップ!

東海



東海地区国立大学附属学校
PTA連合会令和4年度会長
桑名良尚



令和4年8月22日ホテルグリーンパーク津にて3年ぶりとなる対面での
校園長会・副校園長会・PTA会長会
を開催しました。大竹昌
士全附P連会長・前葉泰
幸津市長等からの来賓あ
いさつこのち、松浦直己
特命副学長(附属学校園
統括担当)より「不登校
児童生徒数や特別支援学
級在籍の児童生徒数が
年々増加傾向にある中、
これまで以上に三重大学
教育学部と津市教育委員
会が連携・協同し、不登
校に対する支援と通常学
級に在籍しながらも特別

実践活動協議会を 3年ぶりに対面で実施

な支援を要する児童・生
徒の支援の充実を図るも
のです。具体的には、三
重大学教育学部附属小学
校第2特別教室を改修し、
その1階を当センターと
して使用します。不登校
や特別支援教育といった
今日的課題に対し三重大
学の専門的な教育支援、
子どもたち一人一人のニ
ズに応じた教育のかたち
を還元すべく協働しなが
ら、先進的な教育支援を
行う取組を進めたい考え
です。」と三重大学・津市
子ども教育センター開設
計画(令和5年3月27日
に開所)に関して情報提
供がありました。また三
重大学教育学部附属小学
校の研究活動として、
「360度VR映像を活用

した授業」が紹
介されました。
翌23日も同会
場とサテライト
で感染防止対策
を十分に行いな
がら、人気漫画



「ドラゴン桜」の指南役として知
られる教育評論家の親野智可等
さんから「親力」と題して講演が
ありました。中でも、子どもに否
定的言葉で叱るなど自己否定感
を植え付けるのではなく、方法の
工夫・言葉の工夫で「促す」事に
より自己肯定感を上げてあげる
事が大事であると語られました。
午後からは、子どもたちが日々学
んでいる附属四校園に移動し、先
生方は研究協議会、PTAは実
践活動協議会を、特にPTAでは
「SDGs」の17の目標をテーマ
に各学校園でのユニークな取り組
みが発表されました。

近畿



近畿国立大学附属学校PTA連合会
令和4年度副会長
前田安津久



近畿地区では
5月20、21日に
近附連・近附P
連合同総会並び
に実践活動協議
会を和歌山大学
教育学部附属中
学校にてハイブ
リッド形式で開
催いたしました。
一日目は合同総会
のほか、理事会や
会長会、近畿国
立大学附属学校
教育後援会連絡
協議会(以下近
附後連)の設立

合同総会・実践活動協議会を開催

総会、中央情勢報告そし
て近附後連より「国立大
学附属学校教育後援会の
現状と今後のビジョン」
の題による講演がありま
した。二日目の基調講演
では前和歌山県知事の仁
坂吉伸氏が、知事として
経験された紀伊半島大水
害やコロナウイルス感染
症への対応、また南海ト
ラフ地震への備えなど公
助の観点から講演いただ
きました。分科会Iでは
日本赤十字社和歌山医療
センター高度救命救急セ
ンター長の中氏より「ナ
ショナル・レジリエンスに
ついて」をテーマに被災地
における医療現場の実情
や、学校が災害避難拠点
となった場合の避難所運
営ワークショップを行いと

ても関心の高い
ものでした。分
科会IIではお茶
の水女子大学准
教授の平野氏よ
り「心のリスク
マネジメントと
レジリエンス」
をテーマに、心の対処方法や回復
力など心理学の視点を活かしたア
プローチを学びました。全体会
では文部科学省教員養成企画室の
小畑室長より「現在の附属学校を
とりまく環境と目指すべき方向に
ついて」の講演を頂戴し、次年度
当番校から挨拶があり閉会宣言を
もって二日間が終了しました。今
大会、ハイブリッド形式のシステ
ム構築に非常に苦労しましたが、
現地、WEBとも多くの参加があ
り、今後の運営モデルになると実
感しています。ご協力いただきま
した関係各位に感謝申し上げます。



四国



四国国立大学附属学校
PTA連合会令和4年度会長
小川浩司



令和5年4月28日(金)、香川大
学教育学部附属高松小学校にて、令
和5年度四国国立大学附属学校連盟・
四国国立大学附属学校PTA連合会
地区別勉強会・総会・研究会並び
に四国地区国立大学附属学校・園
PTA実践活動協議会が開催されま
した。本会が現地開催・対面方式の
みにより行われるのは、実に4年ぶ
りのことです。当日は、文部科学省
総合教育政策局 教育
人材政策課 教員養成
企画室室長の小畑康
生氏、全附P連の大竹
昌士会長をはじめ、多
くのご来賓の皆様にご
臨席賜り、また、多く

実に4年ぶりの現地開催

の教員の皆様、PTA会
員の皆様のご出席くださ
り、大盛況のうちに閉会
いたしました。
まず、午前中に開催さ
れた地区別勉強会では、
各校の取り組みに対し、
文部科学省の小畑康生
氏及び全附P連の皆様よ
り大変参考になるご助言・
ご意見を頂戴しました。
午後に入り、総会を経
て、実践活動協議会が開
催されました。四附P連
では、4月1日に引継会
が開催され、多くの方と
顔合わせを済ませており
ましたので、余計な遠慮
などもなく、内容のある
深い協議を行うことがで
きました。
1日を通じて(開催場
所への移動も含め)、お



互いの熱
量が伝わ
り、また、
非言語情
報の共有
により、
強い一体
感が生まれ、改めて、対面での
コミュニケーションの意義を感
じました。今後のPTA諸活動
を行う上でも、その活動の目的
を意識したうえで、コミュニ
ケーションツールの使い分けを
行い、これまでよりもさらに発
展的な活動とするための参考に
したいと思つた次第です。
結びに、本会の開催にあたり、
当番校としてご準備くださった
香川大学教育学部附属高松小学
校の関係者の皆様、大変すばら
しい会を開催してくだり、心か
ら感謝申し上げます。ありがと
うございました。

九州



九州地区国立大学附属学校
PTA連合会令和4年度会長
中村悠雅

令和4年度九附連小倉大会は、5
月12日(金)と13日(土)に北九州
市のリーガロイヤルホテル小倉で、
対面開催いたしました。コロナの5
類感染症移行後に開催できたことも
あり、計250名の方々にご参加い
ただきました。
本大会初日は、監査会と理事会を
行い、全体会と実践活動協議会、講
演会、最後に情報交換会を行いました。
2日目は分科会と教育後援会会
長会、最後に総会を行っております。
飲食を伴う大会は、実に4年ぶり
で2日間とも大いに盛り上がりまし
た。特に盛り上がったのは講演会で、
講師にJ-1通算最多得点記録保持者
である元Jリーガーの大久保嘉人

超 ~未来に向けて~

様、MCにDAZNなど
でご活躍されている森田
みき様をお迎えしまし
た。お話しはインタ
ビュー形式で進み、楽し
くお話を聞きました。特
に子ども時代の経験を子
育てに活かしたお話しに
つきましては多くの方が
感銘を受けられておりま
した。その後の情報交換
会も、講演会の興奮冷め
やらぬ様子で、楽しい時
間を様々なアトラクショ
ンを通じて共有すること
ができました。2日目も
次期主幹校である鹿児島
校への引継ぎを含め、会
はつつがなく進み、初日
からご挨拶いただいたお
ります全附P連大竹会長
からもお祝いとし、附属学
校園の存在意義や役割な



ど、中央だからこそ見える生の
情報を皆に届けてくださいまし
た。
最後になりますが、大会開催
にあたりご協力くださった関係
者の皆様に心よりの御礼申し上
げ、大会テーマの「超 ~未来
への挑戦~」が目指すより明る
い未来へと附属学校園が向かっ
ていけることを切に願ひ、大会
のご報告とさせていただきます。

会長賞

秋田大学教育文化学部附属小学校 2年 津司 昌宗さん
(表示している学年は応募当時のものです)

先生がまたやさしさのたね... 秋田大学教育文化学部附属小学校 2年 津司 昌宗さん

うて作、たあもちゃんを見せると、一年生... 先生がまたやさしさのたね

やましくあそんでみてもうたことば... 先生がまたやさしさのたね

ぼくの中にあつたのです、ぼくに... 先生がまたやさしさのたね

〜くすのき先生からのひと言〜

いろいろな「やさしさ」について話した道徳の授業。空気ほうの遊び... 先生がまたやさしさのたね

全附P連

〈作文・絵作文コンクール2022〉

入賞作品紹介

審査日 2月16日 審査会場 アスティとくしま

審査員 児童文学作家

くすのき しげのり氏 (審査委員長)

(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会正副会長・広報委員会

審査委員長



児童文学作家
くすのき しげのり氏

審査委員長講評

この「作文・絵作文コンクール」のテーマは、「先生へのメッセージ」や「先生との思い出」です。第5回目を迎えた今年も全国の国立大学の各附属学校から、たくさんの方々が素晴らしい作品の応募がありました。全国的な学校生活についても、新型コロナの影響で変わらざるを得なかった子どもたちの学校生活についても、現在はアフターコロナに向けての再度の見直しをすすめる、安心安全な学校生活のために、そして確かな学びのためにご苦労をされていると思います。ただでさえ、社会環境の変化に伴い、教育現場に求められるものは増える一方です。にもかかわらず、働き改革が求められる中で、様々な業務をこなさなければならぬ先生方は、その働く時間の確保にまで頭を悩ませていることとおもいます。私が大学の授業で、学生にむけて話す「教師に求められる資質」というものがあります。たとえば、厳しいけれども親しみやすい、まじめだけれどもユーモアがある、几帳面だけれどもおおらかな、積極的だけれども慎重である、計画性のあるけれども柔軟性がある、わかりやすく教えることができるけれども子どものこだわりにはじつくりと付き合うことができる、社会人としての常識や理性があるけれどもみずみずしい子どもの感性を失っていない。こういったものです。こうした一見矛盾するようなことが一人の先生に求められるのです。応募作品には、日々の様々な業務をこなしながら、子どもたちの前では、まさしくこうしたことを体現した、魅力あふれる先生がたくさんいらつしやいました。そうした先生に対する信頼や尊敬や感謝の気持ちを読み取ることで、審査をしながら心動かされる作品がたくさんありました。子どもたちとの毎日に、そして先生方の人生にたくさんの笑顔があることを心より祈っています。

略歴

児童文学作家。1961年生まれ、徳島県鳴門市在住。鳴門教育大学大学院修了。絵本『おこだでませんように』、『メガネをかけたら』(ともに小学館)が青少年読書感想文全国コンクール課題図書となる。『おこだでませんように』は第2回JBBY賞受賞。また、『ふくびき』(小学館)、『ともだちやもんな、ぼくら』(えほんの杜)は、第3回ようちえん絵本大賞を受賞。教科書掲載作品『ええところ』(Gakken)、『ともだちやもんな、ぼくら』、『ええことするのはええもんや!』(ともにえほんの杜)、『しょうじき50円ぶん』(あかつき教育図書)などをはじめ、『Life』(瑞雲舎)、『いちねんせいの1年間シリーズ』(講談社)、など200作品を超える著作は海外でも広く読まれている。

くすのきしげのり公式サイト (kusunokishigenori.com)

最優秀学校賞 所感

この度は、最優秀学校賞に選出させていただき、誠にありがとうございました。応募に当たり、国語科担当として、本校児童の作品を読んでいると、「担任の先生との忘れられない思い出」や「先生への感謝の気持ち」等、普段の学習ではあまり表現する機会のない子ども達の思いが伝わってきました。それと同時に、この3年間、コロナ禍ではあったものの、我々教師集団は子ども達との間に、確かな絆を築くことができました。深く実感することができました。

本コンクールを通して、子ども達から受け取った感謝の思いを胸に、より一層一人ひとりの子どもに寄り添い、子ども達の成長の為に尽力する教師でありたいと考えます。

最後になりましたが、審査に携わってくださった審査委員の皆様や、本コンクールを中心となって実施していただいた広報委員会の皆様に厚く御礼を申し上げます。



福岡教育大学附属小倉小学校 教諭 中山 卓海氏

全附P連作文・絵作文コンクール2022審査結果

会長賞 小1・2年 秋田大学教育文化学部附属小学校2年 津司 昌宗 「先生がまたやさしさのたね」

- 最優秀賞(絵作文) ①幼稚園年少 鹿児島大学教育学部附属幼稚園年少 濱淵ひかり 「せんせいはいまほつつかい」

- 最優秀賞(作文) ①幼稚園 茨城大学教育学部附属幼稚園年少 石崎 文乃 「こうごせんせいへお手紙」



作文絵作文コンクール受賞作品について詳しくはこちら!

全附P連 表彰

全国の附属学校PTAはそれぞれの地域で様々な活動をしています。全附P連では毎年それらの中から特色のあるもの、特に優秀なものを表彰させていただいております。ここではそんな活動をご紹介します。

会長賞

北海道教育大学附属 釧路義務教育学校 後期課程PTA

本校PTAでは、北海道教育大学附属釧路義務教育学校の教育研究「リーダーシップ・フォローアップの育成」を推進するため、後期課程においては、3年前から、グラウンドに作った屋外特設ステージでの新たな地域イベント「サンセットフェスティバル in 附中」を教職員や地域の方々と創り上げ、協働しながら実施しております。



新たな地域イベントを創造する 「サンセットフェスティバルin附中」

行事を創る上で参考にしたのが、北海道の石狩地方で行われている「ライジングサンロックフェスティバル」です。これは、日本の本格的な野外フェスティバルで、広大な土地にステージを1から手作りします。そこにはあらかじめ確保された座席はありません。細かなルールや制約が設けられていない分だけ、個々が自分で考え、判断する場面も増えてきます。何事も人任せにしない、自分でできることは自分でやる。そんなスタンスが、本校の目指す子ども像と一致しました。



新たな地域イベント「サンセットフェスティバル in 附中」の創出にあたっては、長らく続いたコロナ禍による学校教育活動への影響がありました。特に、学校行事に関しては、例年行っていた文化的行事が、従来までと同じような形で実施することができない状況に追い込まれていました。そうした中であつても、生徒個々の創造性や他者との協調性、豊かな表現活動の場を何としても保障し、ねらいを達成するため、日程と内容を再検討するなど試行錯誤を

取組にあたっては、従来のような学校に閉じたイベントではなく、PTAや教職員、地域住民も一緒になって全員が主催者（リーダー）として、全員が参加者（フォロワー）として、学校から新たな地域イベントを創造し、まちづくりに参加することを付加価値としました。

行事を創る上で参考にしたのが、北海道の石狩地方で行われている「ライジングサンロックフェスティバル」です。これは、日本の本格的な野外フェスティバルで、広大な土地にステージを1から手作りします。そこにはあらかじめ確保された座席はありません。細かなルールや制約が設けられていない分だけ、個々が自分で考え、判断する場面も増えてきます。何事も人任せにしない、自分でできることは自分でやる。そんなスタンスが、本校の目指す子ども像と一致しました。



日も沈みかけた中、「サンセットフェスティバル」のファイナルは、打ち上げ花火です。このア

優秀賞

事例名称	PTA名称
「僕とオトウト」上映会と哲学対話	神戸大学附属特別支援学校PTA
いきいき交流部 研修会「学校ではどこまで教えているの?性教育」	北海道教育大学附属函館小学校 父母と先生の会
PTA組織のスリム化と附小サポーター制度の活用	北海道教育大学附属旭川小学校PTA
iPadを活用した広報誌のデジタル化発行事業	上越教育大学附属中学校PTA
職業体験の夏～附小っ子ワイワイ夏祭り～	北海道教育大学附属旭川小学校PTA
生徒が使う机の奈良県産材天板への交換作業をPTA活動で実施	奈良教育大学附属中学校教育委員会
幼児期からの性教育	山形大学附属幼稚園PTA
キャリアデザインキャンプ「14歳のゼミナール&職場訪問、振り返り」	富山大学教育学部附属中学校PTA
ボランティアの組織化とその活動	埼玉大学教育学部附属中学校 父母と教師の会
筑波大学附属大塚特別支援学校 交流コンサート	筑波大学附属大塚特別支援学校PTA
新しい時代に合ったPTAの改革	上越教育大学附属中学校PTA
コロナ下での親子レクリエーションによる学校・親子の絆づくり	埼玉大学教育学部附属特別支援学校PTA
親子で人権を考えるキッカケ作りとなる「いじめ対策講演会」の実施	京都教育大学附属幼稚園教育委員会

企画にあたった生徒会役員は、「全員が主催者、全員が観客」を合い言葉に、地域の町内会に説明と協力要請を行い、全生徒で挨拶回りとして、フライヤーのポスターインクを学校周辺の住宅に実施しました。



アイデアも子どもたちから出されたもので、地域への感謝とコロナ収束祈願、フェスティバルの成功の想いを込めて打ち上げられ、成功裏に幕を閉じました。PTAストア等の収益は、翌年度の「サンセットフェスティバル」の打ち上げ花火の資金として全額寄付することとしており、持続可能な行事として進めることにしております。今後はさらに、子どもたちや教職員の方々のアイデアを生かして創造・参画する「新たな地域おこしイベント」としての発展・定着を目指してまいります。

令和4年度文部科学大臣優秀教職員表彰



文部科学省では、平成18年度から、学校教育における教育実践等に顕著な成果を上げた教職員及び教職員組織を対象に、その功績を広く周知することにより、教職員の意欲及び資質能力の向上に資することを目的として、文部科学大臣表彰を行っています。

令和5年1月17日には、令和4年度文部科学大臣優秀教職員表彰式を実施いたしました。

表彰式は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じた上で、対面とオンラインのハイブリット形式で行われ、799名の教職員及び54の教職員組織の皆様が受賞されました。

式では、文部科学大臣 永岡桂子氏から代表者に対して表彰状の授与が行われました。永岡大臣は挨拶で、教育は国の礎、まさに国家百年の計であり、教師という職業は、子どもたちの人生に多大な影響を与える尊い職業であると話され、「今後も、誇りを胸に、児童生徒のみならず、同僚や若手の先生方に対してよい刺激を与えていただいたり、教職を目指す学生等に対して学校の魅力を伝えていただいたりするなど、是非とも様々な場面で御自身の経験や思いを発信いただければ幸いです」と述べられました。

国立大学附属学校からは、22名の教職員と、教職員組織は香川大学教育学部附属坂出中学校教員一同チームが受賞されました。

また文部科学省「日本ユネスコ国内委員会広報大使」に就任されているさかなクンから記念講演をいただき、閉式となりました。

式の後には、永岡大臣と被表彰者代表の4名による懇談会を実施しました。懇談会では、教師のやりがいや面白さ、悩みなどについて、率直な意見交換を行いました。

文及び、写真は文部科学省ホームページを引用させていただきます。



直井 裕紀 氏 (茨城大学教育学部附属小学校)

被表彰者一覧

- 菊地智則 秋田大学教育文化学部附属中
- 平千絵 福島大学附属中
- 直井裕紀 茨城大学教育学部附属小
- 齊藤祥平 宇都宮県立共同教育センター附属特別支援
- 肥田幸則 埼玉大学教育学部附属小
- 寺本誠 国立大学法政大学の附属中
- 和田真紀 横濱国立大学教育学部附属横濱中
- 和田麻友美 新潟大学附属新潟中
- 岡田啓吾 上越教育大学附属小
- 関野尋理 奈良大学教育学部附属奈良中
- 武藤宏子 山梨大学教育学部附属特別支援
- 神谷昭吾 静岡大学教育学部附属静岡中
- 大久保輝聡 愛知教育大学附属岡崎小
- 前田昌志 三重大学教育学部附属小
- 吉田寛 奈良教育大学附属中
- 西田淳 奈良女子大学附属小
- 小畑伸五 和歌山大学教育学部附属特別支援
- 井上純一 広島大学附属高等
- 前林宏典 鳴門教育大学附属特別支援
- 前場裕平 香川大学教育学部附属高松小
- 石川圭 愛媛大学教育学部附属特別支援
- 石河誠 福岡教育大学附属久留米中
- 香川大学教育学部附属坂出中教員一同 (敬称略)

いじめ防止対策

～不安や悩みがあったら話してみよう～

いじめ問題を含む子どものSOSに対する文部科学省の取組や、相談窓口のサイトをご紹介します。一人で苦しまず、まず相談してください。



文部科学省の取組について



電話やメール、ネットなどの相談窓口



相談窓口の紹介動画

いじめで困ったり、自分や友人の安全に不安があったりしたら、一人で悩まず、いつでもすぐ電話で相談してください。

24時間子供SOSダイヤル **0120-0-78310** なやみ言おう

クラスの子がいじめにあっていると見たり感じたり、自分や友人の安全に不安があったりしたら、ひとりで悩まずに先生やお父さん・お母さんに相談しましょう。話しにくいときには、いつでも電話で相談できる「24時間子供SOSダイヤル0120-0-78310（なやみ言おう）」に相談してみましょう。例え、かけ間違いやタイミングなどによりつながらないことがあってもためらわずに、何度でもかけてください。あなたの電話を待っています。

あなたのお子さんやお孫さんが 同性愛や性別違和だったら？

レインボープライド愛媛 代表 エディ氏

愛媛でLGBTQ+の当事者支援と社会の理解を進める活動をしています、レインボープライド愛媛の代表エディ（活動名）です。この度は全国国立大学附属学校PTA連合会の皆様方と保護者向けに同性愛や性別違和についての研修動画作成に関わらせていただきました。

恋愛は異性とするのが当然という方々や、自身の身体の性別を違和感なく受け止められている方々というのが多数派ではありませんが、そうではない人たちがいます。同性愛である子ども、自身の性別に違和感を持つ子ども、他にもまだ良く分からないけど他の人と違うなという子どもや、恋愛が分からない、興味がない、性愛に興味がない子どももいます。

性別違和は、性同一性障害との診断名もあり、精神疾患ではないか、身体を直したいかならないのだから、誤解があるかもしれません。同性愛についても、精神

疾患ではないか、変な性癖だろうか？といった誤解があります。どちらも、その人を形作る何もおかしくない個性であって、直すようなことではないのです。直すことなどできないことなのです。当事者の割合は少なくても人口の5%とも言われており、20人に一人。クラスに1、2名の当事者がいておかしなく、皆さんのお子さんやお孫さんが当事者であることも大いにあります。

多くは思春期の時期から「自分は他の人と違うのかも」と気が付きはじめ、親にも相談できずに悩み始めます。中学、高校の時期になります。特に親に対しては、心配かけさせたくない、親に否定されたらどうしよう、と一人抱えてしまいます。自分とは何者か？という自身のアイデンティティに関わってくる問題であるのに、自分の存在そのものを親に認められないほど悲しいことはありません。

この課題は、大人の認識の問題が大きく影響しています。誤解や偏見を解き、親が自分の子が当事者であっても応援すると考えられるようになれば、子どもは自分らしく頑張れますが、それが非常に難しいところではないでしょうか。

我が子がLGBTQ+だろうと、どうか自分らしく大いに自分の人生を進めて欲しい、そのように願えるようになるためには親や大人の整理が必要です。それは当事者の子どもを持つ保護者の方だけの問題ではありません。大人全体の認識が変わっていかないと、当事者はもちろんのこと、当

講師プロフィール

エディ

現職 レインボープライド愛媛 代表



松山で同性愛や性同一性障害などの性的マイノリティの人権啓発を行う「レインボープライド愛媛」の代表を務める。啓発イベントや学習会、愛媛LGBT映画祭、全国虹の大会などの主催、当事者同士の交流支援施設「えひめLGBTセンター虹力(にじから)スペース」を開設するなど、地域に根ざした活動を積極的に行っている。一般社団法人LGBT理解増進会理事。

～愛媛県LGBTQ電話相談～

愛媛県では、LGBTQ電話相談窓口（無料、匿名可能、秘密厳守）を開設しました。県外の方もご利用いただけます。性に関する様々な悩み相談を受け付けています。お気軽にお電話ください。

070-4286-0409
第2月曜と第4日曜の
18時～21時半、月に2回実施

いじめ防止対策 事業の報告

「性的マイノリティーについて」(保護者・教職者向け) プログラム動画

～同性愛者・トランスジェンダーの存在を知って欲しい～

本年度の全附P連のいじめ防止対策の新たな取り組みとして、興味深い取り組みをしている学校での講演等を収録し、どの学校でも同様にセミナーが行えるようにプログラム動画を作成し、附属学校だけでなく地域の学校にも良い取り組みが広がるように活動をしています。いじめ防止対策のテーマは多岐に渡ります。

今回のプログラム動画は「児童」向けではなく、あくまで「保護者」「教職員」向けにオンラインで講演を行っていただきました。講演部分は、「性的マイノリティーについての基礎」、「当事者の声」「学校現場も含めた性的マイノリティーの現状」について説明していただき、グループディス

カッションにて、講演の感想や「わが子からカミングアウトされたらどうする？」等のテーマに当事者の目線で答えていただきました。

講師の言葉の中で、親子関係が一番難しい、子どもに「自分は大切な存在」と自己肯定感を教えてあげられる一番の存在は親です。先ず親が性の多様性を知り「みんな違っていいんだ！」と理解して欲しい、子どもの「自分らしさ」を大切にしたい。という言葉が印象的でした。

いじめというのは人と違うということから生じることも多々あります。多様性を受け入れることができる社会になるように、このプログラムが皆様の今後のPTA活動の参考になれば幸いです。

幼稚園特別支援委員会ページ

特別支援保護者交流会

2023年1月28日(土) 開催方式：ZOOM

本年度、特別支援保護者交流会事業として、「子どもたちと家族がのびのびと過ごすために」の事業テーマのもと、「ドリームデイ・アット・ザ・ズー」など障がいのある方に対する積極的な取り組みを行われている南紀白浜アドベンチャーワールドを運営される株式会社アワーズの嶋中様にご講演いただきました。さらに、福島大学附属特別支援学校の佐藤教諭と滋賀大学教育学部附属特別支援学校の木村副校長に修学旅行はじめ余暇の過ごし方についての事例を紹介していただきました。また、グループディスカッションでは普段の余暇の過ごし方の悩みについて全国の特別支援学校保護者間での意見交換を行いました。

交流会における参加保護者の声や参加保護者のアンケートからは、「テーマパークへ時間をかけて出かけたにもかかわらず周囲の目線に疲れ果ててすぐに帰った」など楽しめなかった保護者の経験談や「南紀白浜アドベンチャーワールドの取り組みを知り家族で行ってみたいくなりました」など今後の子どもたちの余暇の過ごし方に繋がる様々な意見交換を行うことができ、共生社会の実現に向けて取り組むことの大切さを改めて学べる、実りある交流会事業でした。



幼稚園保護者交流会

2023年5月28日(日) 開催方法：ZOOM

本年度、第二回幼稚園保護者交流会事業として「附属幼稚園での主体性を重んじる保育によって豊かに育まれる子どもたち」の事業テーマのもと、各附属幼稚園から4名の先生方をお迎えして、講演会ならびにパネルディスカッションを開催しました。

講演会では、東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎の山田有希子副園長先生より「附属幼稚園の保育と附属幼稚園に期待される役割」について、普段お聞きすることができない附属幼稚園の存在意義についてお話していただきました。

またパネルディスカッションでは、附属幼稚園の魅力や幼児期における遊びの意義について、さらに幼小接続における子育てのポイントについても、各パネリストよりご経験と現在のお立場から大変有意義なお話をいただきました。最後に保護者のみなさんへ「愛は勝つ」お子さんを信じて愛を注ぎ続けてくださいと心強いエールも併せていただきました。

交流会においては、パネリストの先生方への質問やこれまでの議論を見ての感想、「遊び=学び」「見守る子育て」に関する体験など日頃子どもたちと向き合う中で、悩むことが多い保護者にとってとても貴重な交流の場となりました。



あいサポート運動について



坂出中の生徒たちに向けたあいサポーター研修

あいサポート運動は、さまざまな障がいの特性を理解し温かく接するとともに「ちょっとした手助け」を行うことにより誰もが暮らしやすい社会を創っていく運動で、全附P連では全国の附属学校園の子どもたちや保護者を対象とした「あいサポーター研修」の開催を通じて推進しています。

コロナ禍において本事業も停滞しておりましたが、令和4年度は香川大学教育学部附属坂出中学校の生徒たちへの研修を行い、保護者へ向けても島根大学教育学部附属義務教育学校と近畿地区PTA連合会において実施するなど、充実の1年となりました。

また、宮城県多賀城市においては民間任意団体である「障がい者サポーターズGolazo!」主催のイベントに参加された方々に向けた研修も行き、活動の輪が地域へと広がっております。

「あいサポーター研修」では障がいについての初歩的な知識を得ることもできますが、障がいのある方や困っている方へ積極的に声を掛ける「思いやり」や「助けあい」の気持ちを育てることが一番の目的であると感じております。

すべての学校園に研修のご案内をお送りしておりますので関心をお寄せいただき、附属が地域における「やさしさの中心」となっていけるよう、実施のご検討をよろしくお願いたします。



児童生徒のみならず保護者に向けた研修も行っています

カンガルーシップ活動助成事業 ネイバーサポート活動

本年度、岐阜大学教育学部附属小中学校が開催した「親子デイキャンプ～親子・グループ別謎解きゲーム」に、全附P連カンガルーシップ活動助成事業のうちネイバーサポート活動として助成を実施しました。グループ別にオリエンテーションを行うなどタイムスケジュールを工夫して、新型コロナウイルスによる様々な制限下においても「SDGs 謎解きゲーム」等SDGsをテーマとした5つのアトラクションを保護者や仲間と一緒に取り組むことによって、楽しみながらお互いの理解を深める活動が行われました。さらに、岐阜大学附属小中学校が実施した当該活動を岐阜市PTA大会でのパネル展示などで地域への理解を広げる活動にも繋がられました。



高知大学教育学部附属特別支援学校へ視察訪問



宿泊可能で生徒の自立生活の準備を支援するための建物、「くじらの家」や地域の地元企業の支援のもと高知の伝統工芸の復活の一翼を担うべく取組み始めた土佐和紙の原料製作作業現場、そして生徒自らドイツ菓子の製造、店舗での接客販売を行う「hoccosweets」などを視察訪問しました。教育目標にある「児童・生徒が社会に巣立って豊かな生活を送れるように」、「生徒の「社会的自立」「自己実現」を促進するしくみが学校内にたくさん存在することを知ることができました。



第3回みんながつながるオンライン文化祭2022

3年目になります「みんながつながるオンライン文化祭」。コロナ禍のため発表の場がなくなったためにオンライン上で、いつでもどこでも、そしてどの活動でも視聴できる、また発表できる特設ホームページを引き続き開設いたしました。

令和4年度は各学校で活動が活発化してきてリアルに参加できる、またリアルに観に行ける機会が増えていましたが、全国の附属学校の活動が共有できる場所として多くの投稿をいただきました。

今回は14作品が投稿され、1万回以上の視聴がありました。見逃した方も過去2年分の作品も閲覧可能となっております。

また本事業は文部科学省にもご後援をいただいております、全附P連の取り組みだけでなく全国の附属学校の活動を紹介できる貴重なページとなっております。

まだまだ視聴が可能です。

右記のQRコードを読み取っていただき、全国の素晴らしい活動をお楽しみください。

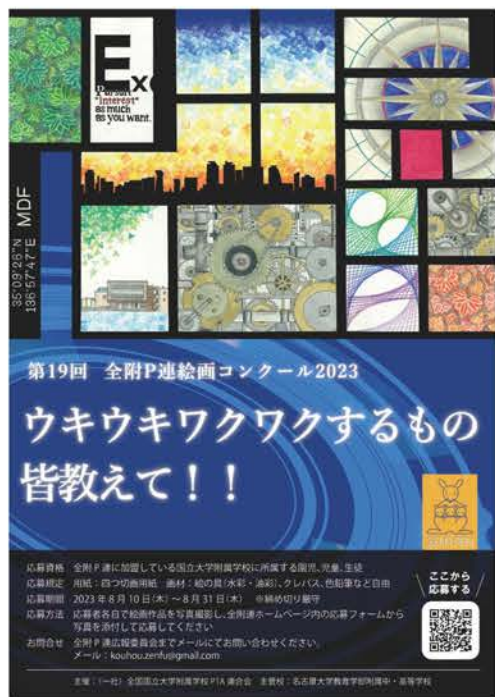
ID : zenfu
PW : zenfu2022



テーマ

ウキウキワクワクするもの 皆教えて！！

たくさんのご応募
お待ちしております！



■応募期間
2023年8月10日
～8月31日

※詳しい情報は全附P連
ホームページに掲載！



ポスター・チラシ制作者
名古屋大学教育学部
附属中・高等学校
織田 倫太郎さん(高2)
水野 七渚子さん(高3)

全附P連絵画コンクール2023開催！！

主管校は東海地区より、名古屋大学教育学部附属中、高等学校。
みなさんのウキウキワクワクするものはなんですか？
身体の芯から湧き出てくるウキウキワクワクを絵画に表現してくださいね！
(ポスターに名・古・屋が隠れています♪見つけられるかなあ～??)

第14回全国大会

『子どもたちとこの国の未来のために～新時代の扉を開こう！これから求められる力とは～』をスローガンに第14回全国大会を開催します。ハイアットリージェンシー東京にて集合型で、当日来られない方、再度講演等を聴きたい方のために、後日オンデマンド配信をする予定です。多くの皆様のご参加及びご視聴をお待ちしております。

開催日程 令和5年9月29日(金) 9月30日(土)

全附連 ホームページ SNSページのご案内

全附P連では、会員の皆様に情報や活動内容を、できるだけ身近に感じていただけるよう、最新情報を発信しています！

全国の附属学校や単位PTAからお寄せいただいた情報、全附P連の活動は、全附連ホームページ、及び下記のSNSを是非、ご覧ください！



全附連
ホームページ



Twitter



Facebook



YouTube チャンネル



Instagram



オンライン文化祭

発行所

全国国立大学附属学校連盟
(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門
1-2-29 虎ノ門産業ビル8F
全附連事務局
TEL:03-3591-2091
FAX:03-3591-2092
E-mail:jimukyoku@zenfuren.org
印刷:株式会社インテックス

編集委員	全附P連
副会長	二村 美里 (静岡浜松中)
副会長	齋藤 伸 (福島特支)
委員長	羌 叡應 (神戸小)
副委員長	松井 聖治 (北海道教育釧路義務後期)
	藤井 大介 (愛媛中)



全国国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ

この保険は(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会の団体保険です。

2023年度 中途加入受付中 カンガルー保険のご案内

ただ今
募集中!

詳細につきましては、パンフレットをご覧ください。

団体総合生活保険	約50%割引 全国国立大学附属学校PTA連合会が窓口の団体契約なので、保険料が約50%割安です。 ・団体割引: 30%・傷害率による割引: 25% ・大口団体割引: 10%・優待	24時間補償 お子様を取り巻く様々なリスクに対応した安心のための24時間補償制度です。	簡単・便利! ・保険料のお支払は、便利な「口座振替方式」 ・更新のお手続きは、便利な「自動更新」です。
任意加入制度	24時間補償		
加入対象者	①全国国立大学附属学校園に在籍の幼児・児童・生徒 ②本制度にご加入いただいた上記①の兄弟で、公・私立の幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校に通われている幼児・児童・生徒(ご加入時に満3歳以上から満18歳以下の方に限ります。)		
加入手続き	パンフレット差込の加入依頼書にご記入・ご捺印(銀行届出印)のうえ、返信用封筒にてご返送ください。		
申込締切日	随時ご加入いただけます。(お手続きの翌月1日(午後4時)からの補償開始となります。) ※パンフレットのご請求、保険料につきましては、取扱代理店までお問い合わせください。		

【引受保険会社】 東京海上日動火災保険株式会社
(担当課) 公務部第二文教公務課 〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 TEL:03-3515-4133 FAX:03-3515-4132 2023年3月作成 22TC-102967

全員加入制度 ※個人での加入はできません。

- 1 園児・児童・生徒、教職員の皆さまのケガなどを補償する **園児・児童・生徒・教職員総合補償制度**
(学校契約団体傷害保険、賠償責任保険PTA特約)
- 2 園児・児童・生徒、教職員の皆さまを犯罪事故からお守りする **犯罪被害事故見舞補償制度**
(傷害総合保険)
- 3 PTA活動に参加中のご両親・教職員の皆さまのケガや賠償事故を補償する **PTA活動総合補償制度**
(普通傷害保険PTA団体傷害特約、賠償責任保険PTA管理者特約、生産物特約)

保険期間 2023年6月1日午後4時から2024年6月1日午後4時まで
※「カンガルー保険(全員加入制度)」は全国国立大学附属学校PTA連合会を引受保険者、損害保険ジャパン株式会社を引受保険会社とし、学校契約団体傷害保険、傷害総合保険、PTA団体傷害保険、賠償責任保険(PTA特約、PTA管理者特約、生産物特約)をそれぞれ組み合わせて加入する補償制度のブランドネームです。
※この広告は概要を説明したものであります。詳細はパンフレットをご覧ください。

【引受保険会社】 損害保険ジャパン株式会社
団体・公務開発部 第三課 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL:03-3349-5408 FAX:03-6388-0162 SJ23-00767 2023年4月20日

カンガルー保険・取扱代理店のお問合せ先 この広告は団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。	《北海道・東北・関東・北信越・四国地区》 株式会社 第一成和事務所 東京都中央区日本橋久松町11-6 日本橋TSビル 8F ☎ 0120-100-492	《東海・近畿・中国・九州地区》 海上商事 株式会社 東京都渋谷区代々木2-11-15 新宿東京海上日動ビルディング ☎ 0120-745-748
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------

鹿児島大学教育学部附属小学校OBでタレント・司会者・俳優として活躍されている恵俊彰さんを訪問させていただきました。附属学校時代の思い出と、同じ父親としてお父様への想い、またご自身の子育て経験と情報番組のキャスターなどの目線から、今後の附属学校の教育に求めるものと私たちへのメッセージを伺いました。



プロフィール

めぐみ・としあき〇1964年12月21日生まれ、鹿児島県出身で薩摩大使を務めている。1989年に石塚英彦とお笑いコンビ・ホンジャマカを結成。現在は、放送15年目を迎えるTBS「ひるおび!」のMCとして「最大関心事を分かりやすく」をモットーに日々、放送に挑んでいる。俳優としてもTBS「下町ロケット」(2015、2018年)や「マイファミリー」(2022年)など話題作に多数出演。司会者、タレント、俳優など多方面で活躍している。早稲田大学大学院スポーツ科学研究科にて「情報番組がスポーツを伝える役割」を研究し、2023年に卒業した。

第14回 附属OB訪問



大竹前会長 対談 恵俊彰氏

可能性を育てる

大竹 附属学校に通われていた頃の恵さんはどんなお子さんでしたか。

恵 僕の中では毎日が旅でした。学校は家から歩いて15分くらいの距離に通っていたのですが、そこには牛や馬、豚がいて、当時の私にとっては動物園のようだったのです。カタツムリが壁にいたり、かみきり虫がとんでいたり、自然豊かな大学のそばを通るのが楽しくて、毎日の登校が大冒険のように思っていました。縦笛の中に虫をたくさん入れたらして、母に怒られた思い出もあります。

大竹 学校だけでなく、通学も様々な事が体験できる教育の場になったのですか。

恵 そうですね。それぞれの附属学校では特色ある取り組みをしていると思います。勉強だけでなく色々なことに主体的に働きかける取り組みを公立の学校にも広げていくため、附属学校は先進的に取り組んでいます。附属学校は先進的に取り組んでいます。附属学校は先進的に取り組んでいます。附属学校は先進的に取り組んでいます。

大竹 先生は現在、4人のお子さんの成長がされていったのですか。

恵 先生は現在、4人のお子さんの成長がされていったのですか。

大竹 先生は現在、4人のお子さんの成長がされていったのですか。



大竹 先生は現在、4人のお子さんの成長がされていったのですか。

恵 先生は現在、4人のお子さんの成長がされていったのですか。

大竹 先生は現在、4人のお子さんの成長がされていったのですか。

恵 先生は現在、4人のお子さんの成長がされていったのですか。

大竹 先生は現在、4人のお子さんの成長がされていったのですか。

保護者は全員 子育ての同級生

恵 先生は現在、4人のお子さんの成長がされていったのですか。

大竹 先生は現在、4人のお子さんの成長がされていったのですか。

恵 先生は現在、4人のお子さんの成長がされていったのですか。

大竹 先生は現在、4人のお子さんの成長がされていったのですか。

恵 先生は現在、4人のお子さんの成長がされていったのですか。

大竹 先生は現在、4人のお子さんの成長がされていったのですか。

